

科目「野菜」において学習の意義を理解させる授業の工夫 —生徒の興味・関心を高める題材を活用した言語活動の展開—

農業班 三宅 創平（高等学校教諭）

研究概要

目指す生徒像

学習の意義を理解し、自ら積極的に学ぼうとする生徒



【ねらい】
・農業の課題について自ら考え、学習の意義を理解する

実践1: レポート学習
データから考察し、文章で表現

【題材の工夫】
・身近な野菜についてのデータを引用
・普段の食生活から考えられる内容

効果的な言語活動の展開

【ねらい】
・体験型農業についてグループで計画し、農業に関する知識の大切さを理解する

実践2: グループ学習
個別学習→グループ学習→発表

【題材の工夫】
・興味を引く計画内容の設定
・知識の重要性に気づくようなワークシートの構成



生徒の実態

○農業については高い関心 ●座学や知識の習得に対する意識が低い

実践1

データから農業課題の対策を考える

・農林水産省HPから野菜消費量の推移データを引用
・データと食生活から、消費量減少の原因と対策を考える

☆STEP1: 日本人は何を食べてなくなったのか?
《データ①1人1年あたりの野菜消費量の推移》

※ ワークシートより抜粋

減少? 横ばい?
野菜全体の消費量 : ()
その他の野菜の消費量 : ()
緑黄色野菜の消費量 : ()

野菜全体の消費量減少=何の減少?

【疑問点】

減少傾向の野菜は主にどんな料理に使う?
ダイコン: () ()
キュウリ: () ()
ハクサイ: () ()
ホウレンソウ: () ()
サトイモ: () ()

どんな料理を食べなくなった?

【疑問点】

《日本人が野菜をたくさん食べるようになるにはどうする?》
という課題に対する生徒の意見
もっとネットを使う 安い和食のレストランを増やす みんなが野菜を育てる
1日に1回は和食を食べるようにする 販売のとき、野菜の食べ方を教える
野菜売り場に野菜をたくさん使うレシピを置く 等

実践2

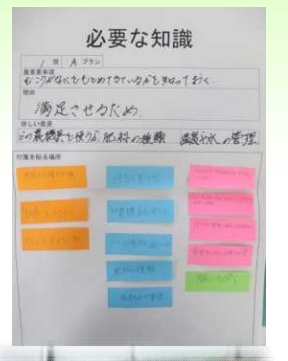
グループで農業体験を計画・発表

・生徒が興味を持ちやすい2つの体験プランを設定

<p>プランA 農家民宿 期間 : 1泊2日 値段 : 1万2千円(2食付) 対象者 : 東京の20代OL 3名 季節 : 夏 作目 : トマト・キュウリ・ナス・ピーマン・トウモロコシ</p>	<p>プランB 収穫体験 期間 : 午前中半日 値段 : 2千円 対象者 : 小学校低学年20名 季節 : 夏 作目 : トマト・キュウリ・ナス・ピーマン・トウモロコシ</p>
--	--

・選択したプランについてグループで計画、発表

- 導入: 班分け・個別シートで学習の概要説明
・4人1組の10班編制
・個別シートを黒板に映写して説明
- STEP1 個別学習: 付箋に意見を記入
・個別に色違いの付箋
→評価に利用し、学習意欲を向上
- STEP2 グループ学習: グループシートにまとめ
・全員に役割
・班長を中心にグループシートにまとめ
・珍しい意見もピックアップ
→自由に活発な意見交換を促進
- STEP3 発表
・発表台本に従い、班員全員が発表
・聞く側の姿勢も指導



【発表台本】 ※ 個別ワークシートより抜粋
《まとめ役》 ○班です。○○について考えました。
《知識担当》 最も必要だと思った知識は○○です。
なぜなら○○○○だからです。
その他に○○や○○という意見ができました。

成果

学習意義の理解→学習内容の定着

- 実践1: レポート学習
 - ・農業課題がより身近に
 - ・思考することで内容が定着
- 実践2: グループ学習
 - ・農業に対する広い視野
 - ・クラスメートの意外な考えに刺激
 - ・知識の重要性を認識

座学での
学習意義を理解
↓
定期考査結果
改善

課題

時間配分 授業の関連性

- 言語活動のさらなる充実へ
→生徒の活動状況を把握し、臨機応変な時間配分
- 興味・関心から学習内容の深化・定着へ
→事前、事後の学習・実習等との関連性を高める